

第4期中期目標期間（4年目終了時）における 実績報告書作成要領（案）の主なポイント

第1章 教育研究評価の基本方針（pp. 1-3）

<主なポイント>

- 第4期教育研究評価の基本方針等を定めた「評価実施要項」（令和5年12月）と同じ内容を記載。

第2章 中期目標の達成状況報告書の作成方法（pp. 4-10）

<主なポイント>

- 国立大学教育研究評価委員会（第74回）において了承された「第4期中期目標期間（4年目終了時）における達成状況評価の評価方法の方向性」に基づき、法人に求める自己分析・評価の内容について、項目ごとに記載。

【自己分析・評価を求める項目】

- ① 評価指標 → 評価指標の達成状況に関する分析・自己判定
 - ② 中期計画 → 中期計画のうち評価指標の設定がない事項などに関する達成状況に関する分析
 - ③ 中期目標 → 不要（自己分析・評価を求める項目なし）
- 達成状況報告書の様式については、文部科学省国立大学法人評価委員会が評価に用いる業務運営等の実績報告書の様式と統一するものの、頁数等の制限や図表等の取扱いについては、以下のとおりとする。

【頁数等の制限や図表等の取扱い】

- ① 「中期計画の実施状況」については、一つの中期計画ごとに最大1頁とする。
また、内容（事項）ごとに箇条書きで記載するものとし、一つの内容（事項）に記載する文字数は、最大300文字とする。
- ② 本文のみで理解できるように簡潔に記載を求め、本文の補足として図表等を使用する場合は別添として、一つの中期計画ごとに最大1頁とする。

第3章 現況調査表の作成方法 (pp. 11-17)

<主なポイント>

- 国立大学教育研究評価委員会（第74回）において了承された「第4期中期目標期間（4年目終了時）における現況分析及び研究業績水準判定の評価方法の方向性」（以下、「現況分析及び研究業績水準判定の方向性」という。）に基づき、法人には、「第4期中期目標期間に係る特記事項」の抽出を基本的に求めることを記載。

※ 研究の現況分析においては、「研究業績説明書」の記載内容と重複しないよう抽出することを記載。

- また、現況調査表の様式についても、現況分析及び研究業績水準判定の方向性に基づき、頁数の制限や図表等の取扱いを以下のとおりとする。

【頁数の制限や図表等の取扱い】

- ① 教育の現況分析においては、本文の記載を最大2頁とする。本文のみで理解できるように簡潔に記載を求め、本文の補足として図表等を使用する場合には別添とし、最大2頁とする。
 - ② 研究の現況分析においては、本文の記載を最大1頁とする。本文のみで理解できるように簡潔に記載を求め、本文の補足として図表等を使用する場合には別添とし、最大1頁とする。
- 第3期の現況分析から導入した「研究活動状況に関する資料」の様式については、現況分析及び研究業績水準判定の方向性に基づき、法人の作業負担を考慮し、文部科学省が実施している国立大学法人運営費交付金「成果を中心とする実績状況に基づく配分について」の研究業績数調査の項目や定義と共通化し、簡素化を図るものとする。

第4章 研究業績説明書の作成方法 (pp. 18-22)

<主なポイント>

- 現況分析及び研究業績水準判定の方向性に基づき、第3期と同様に作成を求めることを記載。なお、代表的な研究成果・成果物を記載する書誌情報等については、タイトル、著者・発表者名及び頁数等の項目ごとに欄を分けて記載を求めていたが、研究成果や成果物、学問分野に応じた記載ができるよう一括りの欄とする。